SóP
Sibata Orange Press

シバタ オレンジ プレス ■毎月25日発行 vol.124

令和4年4月25日号

発行所／(有)アミックス
〒957-0018 新発田市緑町 2-6-45-7 号棟
tel 0254-20-7841 fax 0254-20-7851 http://sop-web.com

特集 啄木を支えた荒川生まれの郁雨

「しばた」を知って楽しみ、「新しいしばた」の町をつくる新聞

現代の美人画を牽引するトップリーダー池永康晟（いけながやすなり）

池永康晟は、なぜ好きな女性を絵に描くのか。それは、人間的にはふつうのコトが今の画壇では、なぜ許されないのだろう、という素朴な疑問を持ったからだ。

10年前から「日本画で美人画を描こうよ」という運動を興すべく仲間を募って、オリジナルな運動の賛同者として、アートフェア等で展覧会を行ってきた。

その成果なのか、今は美人画を標榜する若い画家がたくさん出てきている。だが、面白いことに、池永の「美人画」は、伊東深水まで引き継がれてきた「美人画」と同じではない。かつての美人画は、歌麿から伊東深水まで、ほぼ個人の顔は無視されている。むしろ歌麿「美人」、深水「美人」の様式が優先されている。池永のそれは、タイトルにそれぞれモデルの名称が刻まれ、美人の様式そのものよりも、個性が優先されている。そして、絹本か紙本に膠（にかわ）と岩絵具で描く、といういわゆる日本画の様式も排除する。

麻布に膠を定着剤として泥絵具を置いていく彼の技法は誰にも似ていない。さらに言うなら美人画のステレオタイプである「和服」もあまり登場しない。

だが、池永はステレオタイプ的「美人」を避けて、自らの個人史に登場する一人ひとりのモデルを描き分け、自身のリアリティを掴み、鑑賞者の心を掴んだ。彼の「美人画」の成功は、今までの美人画の定義を微妙に外すことで成し遂げられたのだ。その捻じれが、何とも現在の私たちには面白いと感じられるところでもある。

池永は、画業のはじめから、いわゆる美人画を目指したわけではない。様々なモチーフ、様式を試すなかで、いちばん自分にとって大事なものは何かを見つめることによって、今のやり方を試行錯誤の末に見出してきた。いつも池永の作品が素朴に心に迫るのは、そうした鑑賞の歴史がさりげなく画面に刻み込まれているのを見るものが感じるからではないだろうか。そして池永が感じたふつうのコト。ふつうのコトって、なぜできないのか。実は世の中、「今までこうだった」という群れの中で「ふつうのコト」をやるのは大変なのだ。勇気がいるのだ。それを真剣にやろうとしたとき、道は開ける。

今回は池永の新時代の版画技術ジクレー作品から、「花塗言セレクション」と題した作品を中心に新潟県内初の展覧会を開催する。約百年前に若い女性を魅了し一世を風靡（ふうび）した、未だ色あせない大正・昭和の抒情画の旗手、蕗谷虹児作品とともに比較展示が見られる。

池永は現代美人画のトップリーダーとして今日も日々悩み、次の作品へ向かって自ら問い、答えを出していっている。まだ、進化し続けるだろう、ふつうのコトをやるために。

〈展覧会告知〉
蕗谷虹児記念館開館 35周年記念特別展

進化する美人画
池永康晟×蕗谷虹児

会　期／4.26㈫～7.31㈰
(月曜定休) ※7/18㈪ 海の日は開館
開館時間／9:00～17:00
(受付16:30まで)
会　場／蕗谷虹児記念館
入館料／一般・大学生 510円
高校生 210円
小・中学生 110円

池永 康晟（いけながやすなり）
1965年大分県生まれ。大分県立芸術短期大学付属緑丘高等学校卒業。自身で染め上げた麻布に岩絵具で描く美人画が、独特な質感と芳香を放つ。文房具や本の装丁など海外からのオファーも多い。2014年に刊行された画集「君想ふ百夜の幸福」はロングセラーを続けている。AKBとのコラボ、版画やぬり絵、カレンダーの発売の他に美人画集の監修を行うなど活躍の場を広げている。

コラム

春らんまん

桜の次はチューリップ

宮崎郁雨（いくう）、本名大四郎は荒川の今の松浦保育園の辺りで生まれた。今から約140年前、明治18年のことだ▼職を失って傷心の石川啄木を函館に迎え、その間のみならず、一生をかけて啄木顕彰に努めたことで知られている▼物心がつく4歳の頃、家が潰れて函館に移った。したがって郁雨の故郷の記憶もおぼろげである。

古里や
新発田につづく野の道も山も霞めり
わが夢の中

▼今回、この原稿を書くに当たって「郁雨歌集」を数回、読んだ。若詠みの歌から自負心、老境の歌から悔悟と自嘲が伝わってくるが、その気持ちは常に揺れ動いている。郁雨が文学の徒であることの証拠だ。啄木自身もそれをおもんぱかって「一握の砂」で詠じている。

大川の水の面を見るごとに
郁雨よ
君のなやみを思ふ

▼声をあげて笑ったのが次の歌。

蹴飛ばせばそこにそのまま
伸びて寝る猫の性根に
こちらが参る

ちょいと殿っただけなのに。

▼郁雨はまさか自分の歌碑が建てられるとは夢にも思っていなかった。

百年の後わがために
歌碑建つる人ありとせねど
今日も歌よめり

歌碑は早ければ六月に建つ。一度、歌集を読んでみることをお勧めする。

宮崎郁雨は新発田市出身、石川啄木を支援し続けた

日本人の感性に根付いた石川啄木の生活抒情歌

現代国語の教科書に掲載された短歌数でトップを走っているのが石川啄木（たくぼく）である。平成11年度と平成15年度の採用歌のベストスリーは石川啄木・斎藤茂吉・与謝野晶子の順である。

掲載された啄木の短歌ベストファイブは以下の通り（『国文学』平成16年2月号）。

❶ 不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸はれし
十五の心

❷ 友がみなわれよりえらく見ゆる日よ
花を買い来て
妻としたしむ

❸ やはらかに柳あをめる
北上の岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

❹ いのちなき砂のかなしさよ
さらさらと
握れば指のあひだより落つ

❺ たはむれに母を背負ひて
そのあまり軽きに泣きて
三歩あゆます

❻ はたらけど
はたらけど猶わが生活楽にならざり
ぢつと手を見る

ほとんどがどこかで聞いたことのある歌で、すべてが第一歌集『一握の砂』（明治43（1910）年12月刊）掲載の作品だ。『一握の砂』は五章に分けて編集してある。

＊

❶ 東海の小島の磯の白砂に
われ泣きぬれて
蟹とたはむる

❷ 砂山の砂に腹這い
初恋の
いたみを導くおもひ出づる日

❸ いのちなき砂のかなしさよ
さらさらと
握れば指のあひだより落つ

これら10首の「砂山」を詠んだ歌が冒頭を飾っているのが第一章。中心になっている「砂山」の連作は函館・大森浜での体験で、多くは自己嘉惜と再生の歌だ。

第二章は盛岡中学校時代と渋民村時代、少年時代のきわめて感傷的な回想詠である。故郷への限りない憧憬と、その故郷に拒絶された哀しみを詠う。

❶ ふるさとの訛りなつかし
停車場の人ごみの中に
そを聴きにゆく

❷ 石をもて追はるごとく
ふるさとを出でしかなしみ
消ゆる時なし

❸ ふるさとの山に向ひて
言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな

第三章は「秋風のこころよさに」と章立てされた自然詠、いわば「骨休め」的に配されている。というのも、第四章の「忘れがたき人人」は再び北海道時代の回想と出あった女性への啄木らしい熱い恋の歌で占められているからだ。ここでは「花」に託して詠じたものを挙げてみる。

❶ 潮かをる北の浜辺の
砂山のかの浜薔薇（はまなす）よ
今年も咲けるや

❷ 函館の青柳町こそかなしけれ
友の恋歌
矢ぐるまの花

❸ 馬鈴薯（ばれいしょ）の花咲く頃と
なれりけり
君もこの花を好きたまふらむ

❹ 石狩の都の外の
君が家
林檎の花の散りてやあらむ

第五章の早世した長男への挽歌はあまりに重い。

＊

啄木はようやく第一歌集を出版したものの、第二歌集『悲しき玩具』を見ることなく、明治45（1912）年2月、26歳で没し、浅草・等光寺に遺骨が預けられた。

石川啄木一家を献身的に支援、日本近代短歌への道を広げた宮崎郁雨

啄木の人生をたどってみると、言葉が次々と湧き上がってくる天才的な歌人であるとともに、借金にまみれた生活破綻者だったように思える。

明治38（1905）年、啄木19歳のとき、住職を務めていた父・一禎が渋民村・宝徳寺を追われ、啄木は経済的基盤を失う。明星派の新進詩人として処女歌集『あこがれ』を出版（無印税）したものの残部多く、経済的なメリットはなかった。この年、親戚節子と結婚したが、定職はなかった。

明治39（1906）年4月、20歳で母校渋民尋常小学校の代用教員（月給8円）となるも年末12月には長女京子が誕生、生活はさらにひっ迫した。

一方、函館では短歌愛好グループが野書会を作っていたが、新たに文芸結社を設立し雑誌を発行する話が出た。結社の名前は言葉社（もくしゅくしゃ＝もくしゅくとはまこやし、今でいうクローバー）、中心人物は松岡路堂（24）で主宰は英語教師の木島流人（29）。新発田生まれの宮崎郁雨（いくう＝22）は木島の教え子であり、結社同人・並木翠峯（21）の勧めで同人に加わった。

言葉社が発行した雑誌名は『紅言葉（べにまこやし）』と称し、創刊号の発行日は明治40（1907）年1月となっている。松岡路堂は『紅言葉』に当時文通をしていた啄木に詩の作品を寄稿してもらった関係だ。

ところが、同年4月22日に代用教員を辞めさせられていた啄木は路頭に迷って路堂に函館行きを打診、専属編集人がいなかったこともあったが、何よりも詩集『あこがれ』の詩人が来てくれると言うので、同人は大いに喜んだ。郁雨いわく「鶏舎に孔雀が舞いこむ」ようなものだったと言う。

啄木が函館に来たのは5月5日、青柳町の宮崎家（松岡路堂の借宅）で暮らした。仲の好い同人が集まって「折に触れて歌会を持った（宮崎郁雨著『函館の砂』より）」。啄木は5月11日の歌会について「2年も休んでいたので仲間出ぬ」と日記に記した。しかし、その後、同人は集まれば歌会を開催、啄木も大いに興じたという。

貧乏だが食うには困らない、この文芸貴けの幸福な日々は長く続くことはなかった。啄木の函館時代は8月25日の函館大火を経て9月13日に函館を去るまで、わずかに132日間のことである。

ここで啄木は大きく三つのものを得た。いずれも短歌詠みとしての啄木に欠かせないものだった。一つめは眠っていた「短歌」への情熱を目覚めさせられたこと、二つめは『一握の砂』の巻頭を飾る「砂山」シリーズのモデルとなった大森浜に遊んでインスピレーションを得たこと、三つめは金銭的援助である。まずは同人澤田信太郎が函館商業会議所のアルバイトを、次いで同人吉野白村は函館区立弥生尋常小学校の代用教員の口を、宮崎郁雨は函館日日新聞社の遊軍記者の仕事を紹介した。

直接的な金銭支援はもっぱら郁雨がやっている。7月7日、節子夫人が長女・京子を伴って函館に着いたとき、急ぎ青柳町に新

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222
飯豊電設工業㈱ 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134
㈱伊藤組 新発田市島潟 1273-1 TEL.0254-22-4176
㈱イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056
㈱岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550
SODデザイン 高橋智志 新発田市緑町 2-17-26 TEL.0254-24-5121
小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497
㈱下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296
㈲クサカベモータース 新発田市五十公野 4808 TEL.0254-22-6311
㈱こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381
小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705
小柳産業㈱ 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010
茨木建設㈱ 新発田市長幅 284-1 TEL.0254-23-6851
新発田ニュープラザホテル 新発田市諏訪町 1-9-29 TEL.0254-26-3131
新発田建設㈱ 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711
しばたパッカーズ㈱ 新発田市奥山神保 427 TEL.0254-22-2334
島津印刷㈱ 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101
㈱新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
大進電業㈱ 新発田市佐々木 1895-8 TEL.0254-21-5000
㈱大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
フジマ舗道㈱ 新発田市島潟 4197-3 TEL.0254-26-5030
扶桑畜産㈲ 新発田市米倉字島越 4666-1 TEL.0254-28-5136
山田建設㈱ 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700
㈱安田組 新発田市豊町 4・3・39 TEL.0254-24-1761
介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市荒町 1746-1 TEL.0254-20-3800
㈱オオヌマ 新発田市五十公野 3969 TEL.0254-22-2223
複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市諏訪町 1-10-38 TEL.0254-24-1111
㈲アミックス 新発田市緑町 2-6-45-7 号棟 TEL.0254-20-7841
「生」かして「旬」を
割烹 志まや
新発田市御幸町 1 丁目 1 の 1
☎(0254)22-2102(代)
四季折々の美味
割烹旅館 多奈可や
新発田市稲荷岡 2066
☎0254-41-2013
堀部安兵衛
生誕350年記念出版
もりいくすお漫画
『熱血 堀部安兵衛物語』
〈A4・36 頁〉
1,000 円＋税
富澤信明論文集
『実録 堀部安兵衛』
〈A5・360 頁〉
2,000 円＋税
―系図から読み解く忠臣蔵―
発売所
高木書店
〒957-0052
新発田市大手町 1-2-13
☎0254(22)3241
新発田市観光協会
〒957-0055
新発田市諏訪町 1-2-11
☎0254(26)6789

石川啄木・宮崎郁雨　年譜

○印…石川啄木　◆印…宮崎郁雨　☆…双方

◆明治 18（1885）年 4 月 5 日　北蒲原郡荒川村字荒川・宮崎竹四郎の長男・大四郎として生まれる。

○明治 19（1886）年 2 月 20 日　岩手郡日戸村曹洞宗常光寺・一禎の長男として生まれる。

○明治 20（1887）年　父が渋民村宝徳寺住職に任じられたため、一家移転。

◆明治 20（1887）年頃　宮崎家潰れ、父は単身函館に渡る。大四郎は母・クリと共に母の実家・大沼家に預けられる。

◆明治 22(1889)年　父の迎えで一家函館に移る。

◆明治 24(1891)年　父・かね久味噌店社氏となる。

◆明治 27(1894)年　父・独立して味噌屋創業。

○明治 31(1898)年　岩手県盛岡尋常中学校入学。

◆明治 33(1900)年　道庁立函館商業学校入学。

○明治 37 年(1904)年　堀合節子と婚約。

○明治 38(1905)年　処女詩集『あこがれ』出版。堀合節子と結婚。

◆明治 38(1905)年　商業学校卒業。問屋近藤商店に勤務後、野砲聯隊に志願兵として入隊。

○明治 39（1906）年　渋民村尋常小学校代用教員となる。長女・京子誕生。

◆明治 39(1906)年　野砲聯隊除隊。苜蓿社加盟。

◆明治 40(1907)年 1 月　文芸誌『紅苜蓿』創刊。

○明治 40(1907)年 4 月　啄木代用教員を罷免。

☆明治 40(1907)年 5 月　啄木来函。7 月妻節子・長女京子来函。8 月函館大火。

○明治 40（1907）年 9 月　啄木函館を去る。その後、札幌・小樽・釧路を転々とする。

☆明治 41（1908）年 4 月　啄木来函、家族を郁雨に託して上京。金田一京助と同宿する。

◆明治 42(1909)年　啄木夫人の妹・ふきと結婚。

○明治 43(1910)年　第一歌集『一握の砂』刊行。

☆明治 44（1911）年　郁雨が節子に出した手紙が誤解を生み、啄木から義絶。

○明治 45(1912)年 4 月　啄木、没。享年 26。

○大正 2(1913)年 5 月　石川節子、没。享年 28。

○大正 2(1913) 年 6 月　立待岬に啄木石川一々族之墓」建立。

◆大正 11(1922)年　郁雨、御前講義。

◆昭和 37(1962)年　郁雨、没。享年 78。

◆昭和 38(1963)年　『郁雨歌集』刊行。

人助けを無上の喜びとした父の影響か、郁雨の啄木への支援は徹底していた

居を用意し、家財道具も同人が持ち寄った。しかし、啄木は早速、郁雨にハガキで借金を申し込み、郁雨は「直に出向いて十円か十五円か置いてきた」と回想している。金額が不確かなのは元々返済してもらう気がなかったからとも。

啄木は日記に「宮崎君あり、これ真の男なり。この友とは7月に至りて格別の親愛を得たり」と記している。8月4日には母・カツが、8月9日には妹・光子（またはミツ）が合流した。費用は郁雨が出した。

啄木研究家の井上信興は「（啄木の）友人のほとんどが勤務者で（中略）、郁雨氏だけは手広く味噌の製造販売をしている商家の若旦那だったからとし、郁雨は郁雨の父・竹四郎の信条「他人を喜ばせることが出来るのは仕合せだ」という言葉が脳裏に沁み込んで「私の一生の運命を左右して居るんではないか」（『風鐸』第二巻第一輯・昭和十六年一月）と回顧している。

郁雨は7月7日以来の函館滞在費用はもちろん、啄木が札幌・小樽・釧路の仕事を辞めて明治41年4月24日に上京する費用も、啄木の没後、大正2年に節子が没するまで世話を続けたのも郁雨である。

その後、函館図書館内に「啄木文庫」を作ったり、立待岬に「啄木石川一々族之墓」を建立したり、雑誌『海峡』に啄木関連の記事を執筆、一生を啄木の顕彰に捧げた。

人助けを無上の喜びとした父の影響か、郁雨の啄木への支援は徹底していた

第一歌集『一握の砂』は宮崎郁雨と金田一京助に献じられている。

函館なる郁雨宮崎大四郎君
同国の友文学士花明金田一京助君
この集を両君に捧ぐ。

金田一京助は盛岡中学校の先輩で後にアイヌ語学の大家となった。啄木の東京時代には金銭的な支援もした。

そして、啄木が献辞の第一に持ってきた宮崎郁雨とはいったい何者であろうか。啄木の函館時代に知り合い、その後変わらず支援したことは前章に記したので、今度は生い立ちと人となりを探ってみる。その多くを『郁雨歌集』の年譜から紐った。また、郁雨自身によるふるさと新発田の想い出は主に『風鐸』第二巻第一輯に寄せられた「生まれ故郷と父母」によった。

＊

『郁雨歌集』年譜によれば、宮崎郁雨（本名大四郎）は明治18（1885）年、北蒲原郡荒川村（現新発田市荒川）に生まれている。

家は約275年前の宝暦以来の「豪農」とまでは行かなくとも「豊かな家柄で、法正寺の檀家、近い血筋の親類は（中略）三三軒だけ」、祖父は「世話好きで家には絶えず五人七人の食客がいた」こともあり、家が経済的に傾いて行った」。父は「家運挽回に懸命に働いたが、結局「家を潰してしまった」ため、「運命を開拓すべく翼然として松前指して出かけた」（『風鐸』第二巻第一輯「生まれ故郷と父母」）と回顧する。

父竹四郎は、郁雨4歳の時、母の実家に預けていた母と家族を迎えにきた。余りに幼かったためか、郁雨の生まれ故郷に対する記憶はおぼろげである。

「家の前の綺麗な小川と其処に架かっていた手摺のある土橋、その橋際の見上げる様な大木に花の様に見事に生ってるた無数の柿の実」などはくっきり鮮かである。

父竹四郎は函館で「濱穆ぎそ」出面取り、水道工事の「土方」などのあと、味噌醸造業を起こし、一家をなした。樺太からカムチャッカまで販路を拡大したというが、それは同郷者が創業した堀商店や日魯漁業（現・ニチロマルハ）とのつながりが大きい。

成功した竹四郎は郷里からの訪問客や親戚縁者を歓待した。若干の金銭も渡した。それに母が不足がましいことを言うと「他人を喜ばせることの出来る者は仕合せだ。儀はその仕合せが嬉しくて振り八巻で踊りたい位だ」と言うのが常だった。

この性癖が子の郁雨にも染み込んだ。郁雨は次のように詠している。

世のために生きよと
父のさとすこと
臨終の日もかはり給わず

もちろん、啄木の才能への憧憬もあったが、極めつけの「生活破綻者」啄木とその家族を援助せずにはいられなかったのだ。

余談だが、歌人で新発田町長も務めた原宏平が函館を訪れたとき、父竹四郎が所望した歌碑が“故郷”であった。

啄木の死後、大正2（1913）年4月に生涯の友・岡田健蔵（1883～1944）と図って啄木追悼会を開いている。また、啄木夫人・節子の依頼で函館図書館に「啄木文庫」を設けている。

同年6月には啄木と夫人の遺志に従い、函館・立待岬に夫妻・長男・母常の遺骨を「啄木石川一々族之墓」に埋葬した。

啄木を援助していた頃は郁雨もますます裕福であった。しかし、父竹四郎が没した大正12（1923）年以降、家業は傾々に傾いた。晩年のなさは自身で『郁雨歌集』で何度も嘆いている。

父の業ほろぼすとして
母人の憎みたまひし
事のことわり

しかし、その後も『啄木書簡集』や『函館と啄木』『函館の砂』を出版するなど、「死ぬまで啄木の真実を伝え続けた。

新発田城南ロータリークラブが郁雨生家跡に歌碑建設を計画しているという。うまくいけばこの6月にも建つという。次回はその計画を追ってみたい。

心も体も喜ぶ 健康になれる
デイサービスセンター 陽だまり苑 ふえりあ
4月1日(金)オープン
皆様のご利用を心からお待ちしています
加齢や疾病による体の衰えを改善したい方が選ぶ ヘルスケア 3 選
体喜ぶ リハビリ
理学療法士 小林 歩実
脳梗塞の回復期や呼吸器、循環器系
疾患のリハビリを得意とする
体喜ぶ 健康トレーニング
体を動かすことによって
転倒予防や身体機能の向上に繋がります
心喜ぶ 健康サポート
管理栄養士、看護師や歯科衛生士が
健康面のサポートをします
歯科衛生士が
口腔ケアをご指導します
健康管理は看護師に
お任せください
気泡風呂
下肢筋力強化
新発田市富塚町2-4-13
0254-20-7726

新発田藩の歴史資料
令和4年度 春季通常展
4/9(土)→6/12(日)
1階展示室 入場無料
開館／9時～17時
月曜休館(祝日開館・翌日休館)
GW休館日 4/25(月)、5/2(月)、5/9(月)
※展示室は通常通り開館しております
イベント 城下町まち歩き〈清水谷編〉
5/14(土) 13:30～16:00 ※終了予定
地域職員の同行解説付き!!
―江戸時代の町絵図を手掛かりに歴史散策をしませんか―
定 員／15名(申し込み先着順)
対 象／どなたでも(各コース初めての方を優先します)
参 加／200円(当日徴収)
集合場所／中央図書館(イクネスしばた3階 多目的室6-7)
申込受付／4/15(金)～5/13(金)まで当館へ電話、
または直接事務室へ申し込んで下さい。
新発田市立歴史図書館 新発田市中央町4-11-27 ☎0254-24-2100

落語会
新発田あやめ寄席
春風亭昇太
林家たい平
ペアチケット 3組6名様分を プレゼント!
5/15 必着
本紙感想・住所・氏名・電話番号を明記の上、表紙左上の住所宛までハガキにてご応募下さい。
2022.7/3(日) 開場13:30 開演14:00
新発田市民文化会館大ホール
入場料 全席指定 A席2,500円 B席2,000円 ※未就学児は入場不可
チケット 5/6(金) 発売開始!
【主催・お問い合せ】
新発田市民文化会館
TEL.0254-26-1576
〒957-0053 新発田市中央町4-11-7
【プレイガイド】
■喫茶「紫音」(市民文化会館内) ■健康長寿アクティブ交流センターきやり館
■新発田市観光情報センター(イクネスしばた MINTO館内)
■豊浦地区公民館 ■紫雲寺地区公民館 ■加治川地区公民館
■下越音楽鑑賞協会 ■セブンチケット

山形交響楽団
ペアチケット 3組6名様分を プレゼント!
6/20〆切り
本紙感想・住所・氏名・電話番号を明記の上、表紙左上の住所宛までハガキにてご応募下さい。
チケット発売日:5月20日(金)
山形交響楽団 新発田公演
2022年 7/31(日) 16:00開演 (15:30開場)
新発田市民文化会館〈大ホール〉
入場料／全席指定 2,000円 ※未就学児は入場不可
プログラム メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲ホ短調、モーツァルト／交響曲第41番「ジュピター」ほか
◆プレイガイド ・喫茶「紫音」(市民文化会館内) 0254-22-5726 ・新発田市観光情報センター 0254-26-6789
・健康長寿アクティブ交流センター「きやり館」0254-22-1254 ・チケットぴあ
◆主催・お問い合せ／新発田市民文化会館 〒957-0053 新発田市中央町4-11-7 TEL.0254-26-1576